

制作集団

# 彫玄



身延山大学

仏像制作・修復室

東日本大震災直後より「我々仏像に携わる者には何ができるのか」と考え、慰霊仏像として「悲母観音像」の制作が行われました。

現在悲母観音像は岩手県陸前高田市妙恩寺本堂に納められ、多くの方に参拝していただいております。



悲母観音に続く「慈母観音」の制作など工房には多数の仏像がございます。慈母観音像では引き続き「一のみ運動」を続けておりますので、お気軽に問合せ、ご訪問ください。お待ちしております。

TEL 0556-62-0308

住所 山梨県南巨摩郡身延町身延3567

ホームページ・facebookからも

受け付けております

東日本大震災慰霊

## 悲母観音像



# 七面山 敬慎院



修復前



法華経の聖地として名高い七面山山頂にある敬慎院の現在の本堂は、230年前に火事により焼失した後、再建されたものです。この度の内陣修復事業は再建以来、初めて行われました。



彫玄堂では、

仏像は信仰の対象である

ことを重視し、制作当初の姿をできる限り取り戻していただく「完全修復」を行っています。



「完全修復」では欠損部の補完や金箔の貼り直し、彩色の補修を行い完全な御姿を取り戻していただきます。完成後はお堂等の安置場所の雰囲気に合わせて古く見せる「古色」を行うことも可能です。

# ご挨拶

身延山大学特任教授  
柳本 伊左雄

『のみおと』第四号を発行するにあたり、様々なご報告ができますことを喜ばしく思います。

第二十回ラオス仏像修復プロジェクトにおきましては、大きな進展がありました。タイの研究機関に拠点を置くピーター・スキリング博士を始め複数の研究者からの協力が得られることになり、ラオス仏像の銘文解読に新たな一歩を踏み出すことが期待されます。

更に帝京大学からの参加は、三次元測定器「Artec Eva 3D scanner」による各寺院の調査等、今までと違った方向からのアプローチが進められております。

また本年は、東日本大震災慰霊のための慈

母観音像完成が予定されており、八月に宮城県仙台市の孝勝寺に設置をいたします。

他にも、七面山敬慎院の天井画等の制作が開始され、仏像彫刻実践の授業では動画テキストを使用した新たな取り組みを行っております。

現在工房では修復仏像も次々と運び込まれ、活況を呈しております。



修復後

修復前

ラオス ワット・タットノイ  
焼損仏像

## 第二十回 ラオス仏像修復プロジェクト

平成三十年二月十八日  
三月十一日、ラオス仏像修復プロジェクトを実施いたしました。

今回は木彫仏「ワット・ビスナラート」三体、火災で大きなダメージを受けた「ワット・タットノイ」二体の修復を完了し、念願であった「ワット・アーパイ」の塑像大仏の修復を三年の予定で開始しました。



修復を開始した「ワット・アーパイ」の塑像大仏

# 第二十一回ラオス仏像修復プロジェクト

平成三十一年二月六日～三月十日（準備期間を含む）にラオス仏像修復プロジェクトを実施しました。

## 修復仏像の成果

- ワット・タットノイ（火災破損、継続） No.8・No.9
- ワット・アーパイ塑像（パタイフン、修復二年目） No.1
- ワット・ビスナラート木彫仏 No.21・No.52
- ワット・ビスナラート铸造仏 No.28

ワット・タットノイ（火災破損、来年度継続）  
No.8・No.9



- 今年度修復内容
- ・表面焼失部含浸材充填
  - ・カモク充填
  - ・整形
  - ・来年度継続修復



## ワット・アーパイ塑像

（パタイフン、修復二年目）

今年度修復はカモク（漆と菩提樹の灰を混ぜたもの）を欠損部に充填し、整形の後に漆箔を施しました。来年度も引き続き修復を行います。



# 東日本大震災慰霊慈母観音制作

本年八月に開眼を控え、現在仕上げと割れ止めの作業を行っています。また彩色計画も進んでおり、被害に遭われた方々に心の安らぎを得ていただけるよう、心を込めて制作を進めております。

財・ご支援により、今日まで制作を進めることができお  
りますこと心から御礼申し上げます。



水晶彫刻組合からは前回に引き続き玉眼、白毫、瓔珞、水晶（四寸玉）制作をご寄付いただき、感謝の念に堪えません。

更に身延山久遠寺をはじめ多くのご寺院や個人からの浄

# 東日本大震災慰霊慈母観音

昨年八月仙台市孝勝寺に於いて行われた慈母観音開眼式、東日本大震災慰霊の為の慈母観音建立開眼式を、身延山久遠寺第九十二世内野日総法主猊下をお迎えして盛大に行う



ことが  
できま  
した。  
犠牲  
になら  
れた方  
々は二  
万人に

も上ります。我々の気持ちとして未来永劫に渡り、あまねくすべての人々が救われるようにと、サイズ・精度を含めて歴史に残る制作を心掛けました。

慰霊の為の仏像制作を岩手、宮城、福島に安置する予定で進めております。多くの方々のご協力で、現在岩手妙恩寺、悲母観音（立像二m六十）・宮城、慈母観音（半跏像二m八十）、を完成する事が出来ました。



# 七面山敬慎院天井画制作

昨年度より引き続き七面山 幣殿修復事業を行っておりま  
すが、今年度は 特別な工夫が必要だ  
と考えています。

格天井の龍と天井画の制作に入ります。

天井画龍は金箔下地に龍を描く予定ですが、七面山は高湿度であるなど天井画にとって劣悪な環境ですので、下地に



格天井（上）と天井画（下）の下絵

# 天井画制作（龍）・仏像修復

七面山敬慎院幣殿修復事業も三年目を迎え、今年は格天井の龍と四メートル四方の天井画（金龍）の制作を行っております。

その他にも、長生寺（山梨県）七面堂の天井画（全長四m）も並行して制作を進めています。



# 第二十二回ラオス仏像修復プロジェクト

本年一月二十七日～三月十六日、第二十二回ラオス仏像修復プロジェクトを実施しました。

また、二月十九日には、事業開始二十周年の節目にあたり、身延山久遠寺総務であり、本学理事長兼学長でもある持田日勇（貫宣）

猊下を現地ワット・ビスンナラート寺院にお迎えし、北山本門寺貫首であり本事業をご支援いただいているラオス仏像修復サポーターズクラブ会長でもある旭日重猊下のご臨席を賜り、現地ラオス仏教連盟と合同で、盛大に二十周年記念法要を執り行いました。

三百人を超える敬虔な仏教徒が境内に溢れ、散華が舞い声明が流れるさまは、法華経の響

きが大河メコンの流れに乗り、ラオス全土に拡がるように感じられたひと時でした。

修復事業に於きましては、新たに四体の仏像修復と一体の仏像の継続修復、チョムケー（仏像頭頂部）五点の制作を行いました。

また、調査研究分野では、仏像様式の研究者として高田智仁先生（タイ・サイアム大学教授）、素材研究に大藪泰先生（京都市産業技術研究所フェロー）にご参加いただき、より専門的な分野からのアプローチを進めることができました。

仏像設置状況につきましては、例年通り世界遺産地区内の各寺院を訪問し、移動・盗難

についての調査確認を行いました。

さらに現地学生を対象とした講義とワークショップを昨年引き続き開催しました。大藪泰先生およびジル・エマ・ストロースマン先生（本学特任講師）による研究結果の発表を兼ねた講義を、先年度に「JICA草の根技術協力事業」により整備された施設で行い、現地の学生が日本の技術を学ぶ貴重な場となりました。



法要風景



講義風景